

予報期間 2月18日から2月24日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 20日は、高気圧が三陸沖へ移動し、気圧の谷が本州南岸へ進む。
- 21日は、高気圧が日本の東へ移動して、日本付近へ張り出す。
- 22日から23日は、低気圧が中国東北区を北東へ進み、前線が日本海から北日本付近を通過する。
- 24日は、低気圧が沿海州付近へ進む。気圧の谷が西日本付近へ進む。

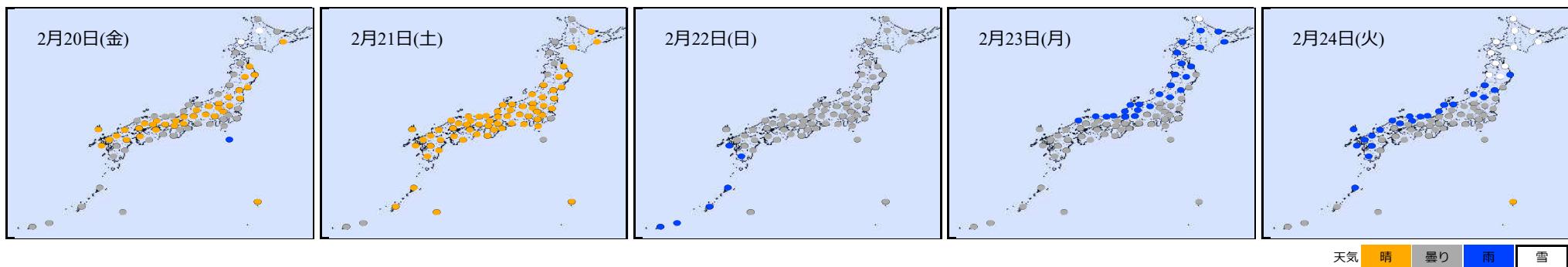
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

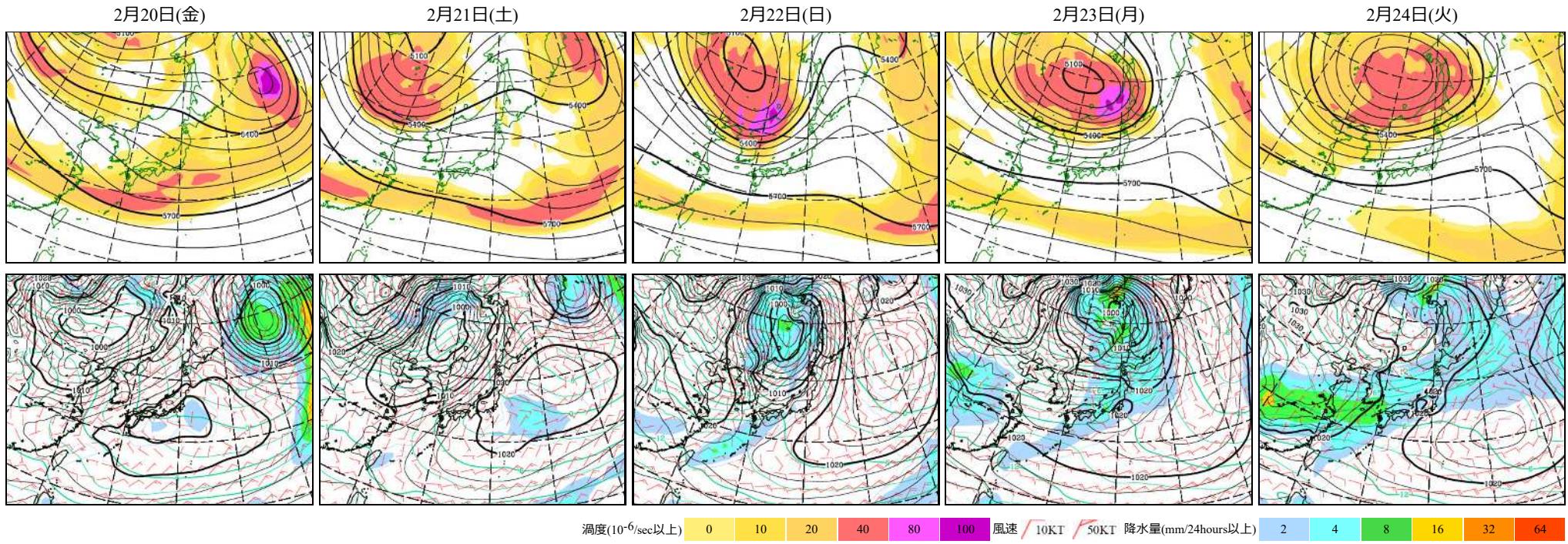
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

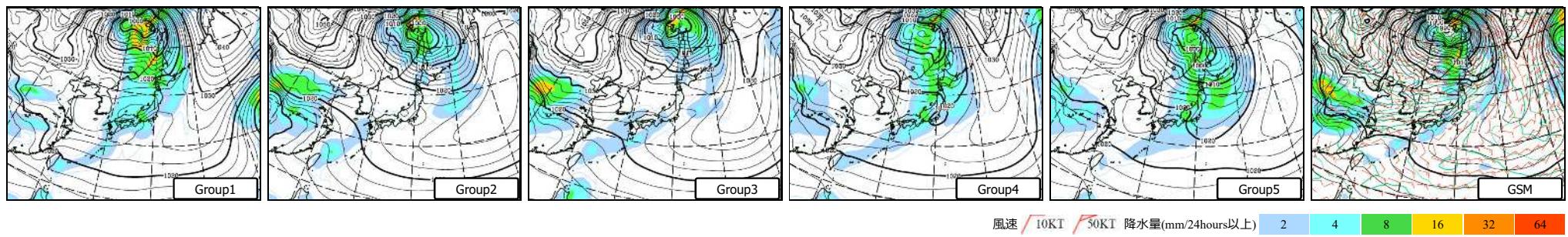


- 北日本は、日本海側は雲が広がりやすく雪または雨の降る日がある。太平洋側は晴れまたは曇りの日が多いが、23日と24日は雨または雪の降る所がある。
- 東日本と西日本は、20日と21日は晴れまたは曇りとなる。22日から24日にかけては雲が広がりやすく雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りまたは晴れの日が多いが、22日と24日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月23日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料（ENS）は、20日は西日本付近へ進むトラフが浅くなり、本州南岸の気圧の谷が不明瞭となったため、東・西日本太平洋側の降水確率が小さくなつた。
- 各モデルとも、20日は本州南岸の気圧の谷は不明瞭となつた。また、23日頃は、ECMは日本の東のリッジが強まり、寒冷渦がサハリン付近へ進む予想に変わり、他のモデルの予想に近づいた。
- スプレッドは、期間の後半は大きく、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。24日は、地上のじょう乱の予想にはモデル間の差がみられる。日本海に低気圧を予想しているメンバーや本州付近に気圧の谷を予想しているメンバーがみられ、ENSは各モデルの予想を含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。